



東京多摩プロバスニュース

第 95 号



■事務局: 〒206-0013 東京都多摩市桜ヶ丘 1-53-28 鈴木泰弘方 ■電話: 090-4846-7183

■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com> ■編集・発行: 広報委員会 2021. 7. 21

共に学びながら、高齢化社会に貢献しよう

第 203 回 定例会

日 時 : 令和 3 年 5 月 12 日(水) 予定するも中止

第 204 回 定例会

日 時 : 令和 3 年 6 月 2 日(水) 予定するも中止



ごあいさつ



理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする

心がひとつになった時

令和 3 年 6 月 27 日、東京多摩プロバスクラブは、関戸公民館のギャラリーで ZOOM によるオンライン講演会を開きました。テーマは「コロナ禍とたたかう多摩市民の皆さんへ」です。講師は多摩市長阿部裕行氏、多摩市医師会会長田村豊氏です。講師の候補は二転三転しました。最初は「コロナの女王」白鷗大学の岡田春恵教授。マネージャーが「一回 50 万円です」絶句。本人から電話で「澤さんだから半分にします」絶句。それでも無理です。次の国立感染研の元部長も資料の著作権問題で NG。しかし今考えると市長、医師会会長の選択は市民にとってベストでした。

澤雄二地域奉仕委員長



講演会の場所も三転、方法もリアルから ZOOM へ、プロバスの理事会で講演会の構想を説明してから約一年、定例会で説明してから七か月。次から次へとよくぞこれだけの……。難問がやってきました。でも実現したのです。それは困難に遇う度にプロジェクトチームの一人一人の心が、「やるぞ」とひとつに融合し始めたのです。800 人の周の武王が 70 万騎の殷の紂王を破った故事がありますが、小さなチームでも「ひとつの心」になった時に ZOOM による 100 人聴講という大きな成果を実現させたのです。

メンバーを紹介しましょう。リーダー澤雄二: ぶれませんでした。会友大澤亘: プロバスの「市民講座の父」です。この人の執念と情熱で実現しました。理事小林務: 「地域奉仕だけでなく、研修親睦の予算を使おう」難問解決です。理事小島明: 好評だったポスターを制作、2000 枚を市内に配布。理事片倉満: ZOOM の受付を一人で。

100 人聴講の立役者です。会員秋山正仁: 近隣プロバスの会員に聴講を猛プッシュ。関戸公民館の桑原道子: 共同主催を推進、会場費無料に。多摩広報に告知を掲載。YCC 斎藤修: VTR 取材編集。当日の ZOOM のコントロールで最大の功労者です。

休会中の清家美紗子・阿部華歌: 会場に駆けつけ受付を。プロバス会員全員の方に募集などで応援いただきました。小さなチームの心がひとつになって! 多摩プロバス全員の心がひとつになって「コロナ禍と戦う」多摩市民に向けたオンライン講演会を見事に成し遂げました。皆様に感謝、感謝です。



多摩モノレール道路を跨ぐゆうゆう橋で、橋の中央には 6 月満開に咲くツツジの花壇が並んで保養になります。

この度、オンライン講演会「コロナ禍とたたかう多摩市民の皆さんへ」と題し、多摩市関戸公民館共催・多摩市医師会協力で、6月27日(日)、14:00～15:30、関戸公民館7階で開催。初めてのオンラインで幾多の課題を乗り越えて、成功裏に終わることができました。準備・運営に携わったスタッフから感想を綴って頂きました。 澤雄二委員長

○アナログ世代の挑戦

小林務会員

令和2年度定例会総会中止、全国プロバス協議会の青森五所川原総会の延期(令和3年中止)、コロナ感染予防対策優先に全ての活動が中止、6月の理事会に次年度活動計画はコロナ感染防止に関する講演会開催を澤雄二地域奉仕委員長の提案で、日時は令和3年6月27日、開催場所は多摩市関戸公民館、3密を避けて入場者100人程度に、講演時間も1時間以内と講師も決めて具体的な準備を進めた。

コロナ感染状況は収束の兆しも見えない処に問題発生、開催場所のホールを含めたビル8階全体が多摩市民ワクチン接種会場に指定され、急遽オンライン講演会に変更、講師も多摩市阿部市長と多摩市医師会田村会長に打診も快諾を戴く。但し、田村会長は開催当日ワクチン接種に多忙を極める為6月21日午前ビデオ撮りにて当日放映、講演内容も分かり易く好評、良い動画も撮れました。

6月27日関戸公民館ギャラリーにて14時開演、オンライン参加者はズーム、会場合わせ約100名、不慣れなパソコン、スマホ操作に戸惑いながらも、またオンラインで質疑の増山敏夫会員も、タイムリーなテーマに有意義な1日でありました。アナログ世代が挑戦したオンライン講演会は盛会裡に閉幕、一同16時に解散。関係各位に心より感謝とお礼を申し上げます。

○オンライン講演会を振り返って

小島明会員

私はチラシ及びポスター担当で、今までに経験があり苦勞ではありませんが、当初予定していた講演者が次々と変わり、最終的に阿部多摩市長と田村多摩市医師会会長になりました。結果的には多摩市のコロナ禍の話ですので最高な人選だったのかも知れません。只、ポスターに二人の写真を入れるには、段落・フォント・ポイント数などフレーム内に納まるよう工夫を要したことと、肖像権の許可を取る為に関係先の事務所に電話をして許可を頂きました。

多摩市のコミュニティ・生活科に出向き、多摩市の9か所のコミセンにポスターの貼り出しを、多摩市自治連合会や農協にチラシの配布をお願いしました。そして、私の自治会の掲示板5カ所と約650所帯の会員にも回覧しました。振り返ってみますとZOOMという問題もあるかもしれませんが、講演は大成功だったと思います。

○応募者登録受付窓口

片倉満会員

6月27日実施の「オンライン講演会」が世間に知れわたるのは6月5日発行の「たま広報」でしたが、どこから聞きつけたのか、5月23日に私のPCへ参加申し込みメールがありました。幸先が良いと思う反面、リモートでの応募はパソコン、スマートホン操作が不慣れの参加対象者から申し込み数が多くなるとは思いませんでした。

定員が100名のZOOM形式は日を迫うにつれ、告知後の

登録数は伸びませんでした。

運営担当者会議を何回も重ねながら、各自の人脈頼りによる超アナログの掘り起こしを続けることから、当日の100名参加者を達成することができました。当クラブの会員の人脈の広さ、世間とのつながりの深さ、そして団結力によって、高い目標数を達成することができました。

因みに、遠くは北九州市、大阪池田市、近くでは日野市、八王子市などからでした。不慣れなリモート講演会なのに本当によく集まりました。感激です!!

○多摩市立関戸公民館

桑原道子氏

オンライン講演会「コロナ禍とたたかう多摩市民のみなさんへ」の大成功おめでとうございます。最初に、関戸公民館との共催のお話があったのが昨年の11月。

その後、新型コロナウイルス感染状況やワクチン接種会場設営等の影響によりヴィータホールが利用できなくなり、市民ロビーでの講演会、ギャラリーでの講演会と二転三転しながらも可能性を探り、最終的にギャラリーでのオンライン講演会となりました。延期や中止も検討しながらも、「コロナから市民を守るために『今』できることをすべきである」という強い信念で事業を進められ、100名という市民が参加する結果を出された。その過程をご一緒させて頂いた事は貴重な体験となりました。私自身の今後の仕事への姿勢や取組みにも活かしていきたいと思います。今後の皆様の益々のご活躍とご多幸を心からお祈り申し上げます。

○講演会の撮影と配信を担当して

株式会社ワイ・シー・シー 斉藤修氏

今回、多摩市医師会会長の動画撮影と当日のオンライン配信を担当し、非常に良い経験になりました。多摩プロバスクラブの皆様ありがとうございました。今年度から日野市・多摩市の公民館連携事業も支援することになったので、この経験を活かして引き続き産官学民連携の推進を支援させていただきます。



オンライン講演会后、阿部市長を囲んでスタッフ一同

オンライン講演会「コロナ禍とたたかう

多摩市民のみなさんへ」

日 時 ; 令和3年6月27日(日) 14時~15時30分

場 所 ; 関戸公民館7階ギャラリー、阿部裕行多摩市長の講演はここから発信しました。多摩市医師会田村豊会長の講演は事前に収録したビデオ映像を配信しました。

〇開会の挨拶 高村弘毅会長

東京多摩プロバスクラブでは今のコロナ禍の中でどう活動すべきかについて色々検討してきました。慎重論もありましたがこの時期にこそコロナ禍の中どう生きていくかを市民の皆さんに訴えるべきだという強い信念に基づく意見もあり、これを探ることとしました。また、初めての試みで感染防止のためオンライン講演会の方式で行います。自宅等からこの講演会に参加して頂いた市民の皆さんに心からお礼申し上げます。そしてワクチン接種でご多忙の田村先生にはビデオ映像で、また阿部市長さんにはこの会場にご来場して講演をしていただきます。講師のお二人にも厚くお礼申し上げます。今回の講演会が少しでも皆様のお役に立つことを願っております。



〇司会 澤雄二地域奉仕委員長

6月に入り感染者数が減り緊急事態宣言が解除され、ワクチン接種も進んでコロナ禍の収束が期待されたのですが、そう簡単ではなく、インド型(デルタ型)の変異ウイルスによる感染が拡大し、世界的にも同様な状況です。

そこで今日は医療現場の最前線で活動されている多摩市医師会会長の田村豊先生と、多摩市行政の最高責任者として市民の生命と健康の維持に当たる阿部市長さんをお招きしてお話を伺うこととし、市民の皆さんに役立つ時宜に合った企画と確信しています。

〇多摩市医師会会長 田村豊先生

(1)昨年2月、横浜港に入港した豪華客船ダイアモンド・プリンセス号にコロナウイルス感染者が出て日本もこのウイルスと無関係ではなくなりました。当初はワクチンも治療薬も無くマスクを着け3密(密閉・密集・密接)を避けるのが唯一の対策でしたが、その後ファイザーやモデルナで今までは全く違う製法による新しいワクチンが開発されました。当初は我々医師の間でも接種は怖い、様子を見たいなどの声もありましたが、予防効果95%などの実情が分かるにつれ懸念も無くなり政府も今では「1日でも早く1人でも多く」の方針で接種を進めており、田村クリニックでも診療室を接種室に変え接種の促進を図っています。(2)ワクチン接種が60%に達すると集団免疫効果が生じ、ウイルスの感染力が落ちるのです。幸い日本では手を尽くし



田村医師会会長と司会の澤委員長

て一人2回打つ量は確保しているようですからぜひ接種を受けて下さい。副反応も色々言われましたが実際に接種した結果では特に問題は出ていません。またいま急速に感染を拡大しているインド型(デルタ型)の変異ウイルスにも有効とされています。ただこのウイルスを絶滅させることは難しく、また今後新しい変異株が登場することも予想されますが、1918年のスペイン風邪流行の時のように毒性の強いウイルスも何年か経つと毒性が弱まるので、今のインフルエンザウイルスのように毎年のワクチン接種によって共存ができればよいと思います。

〇多摩市長

阿部裕行氏

(1)東京都の新規感染者数の推移をグラフで見ると、まず4~5月に最初の山があります。6月には収束したように見えますが、これは感染者が無くなったわけではなく当時はまだPCR検査体制が不十分だったため実際の感染者数が反映されていなかったものです。8月に第2の山、年末か今年1月にかけて一番大きな第3の山があります。



第2回目の緊急事態宣言が発せられた時で、人口呼吸器や集中治療室が満杯に。この5~6月に第4の山があり、6月後半の直近の数字が増え十分注意する必要があります。

(2)多摩市の感染者状況は東京都と少し異なりそれほど増加してなく、東京都には新宿歌舞伎町、六本木、渋谷センター街、銀座などの繁華街があり、これらの地域で新たに感染者が発生するので感染者の増加を防止することができないのです。これらの地区にもっと強力な感染防止措置を講ずべきだと思います。

(3)東京都の23区には各区に保健所があり、多摩地区でも八王子と町田には各1つの保健所があります。他に5つの保健所が残り28市町村を分担しています。

永山の南多摩保健所は多摩市・日野市・稲城市を担当、これは東京都の組織で多摩市に直接データが提出されず、今回のようなコロナ禍の場合、保健所はPCR検査、感染者が出た場合の濃厚接触者の追跡調査、クラスター発生時の対応措置の指導など重要な仕事があるので、多摩市としては保健所との連携強化が絶対必要なのにそのような体制にはなっていません。また、高度救命救急センターは諸外国では公共機関が多いのですが、多摩市の場合市民の皆さんが利用するのは例えば杏林大学病院など民間の病院が多いので、これも今後の課題です。

〇 ; オンラインQ&A

増山敏夫会員

今日は、Q1 ; 副作用を心配してワクチン接種を躊躇している人がいますが心配あるのか? Q2 ; 多摩市の感染源はどこなのか? について質問を予定していましたが、いずれも両先生の講演の中でお話になり了解いたしました。

(文責 地域奉仕委員会 大澤亘会友)

◆◆◆ 幹事・委員会報告 ◆◆◆

1. 幹事報告

小林務幹事

開始時間；全て 13：30～

会場；未定

1.1. 活動報告

第4波の蔓延が危惧される中、5月26日の理事会にて今後の活動全般について協議した結果、下記の通り決定し会員に緊急連絡をした。

- 1) 6月2日（水）の定例会は中止する。
- 2) 6月30日の定例理事会の他、臨時理事会を6月2日、16日に開催した。
- 3) プロバスニュースは予定通り7月初旬に発行する。
- 4) オンライン講演会を開催した。詳細は地域奉仕委員会の報告にて。

1.2. 会員構成 令和3年7月1日現在(敬称略)

会員：26名（内休会4名：阿部華歌・上田清・鈴木達夫・中村昭夫）

会友：6名（青木ひとみ・大澤亘・小池博・瀬尾日出男・永島仁・蓮池守一）

1.3 理事会

1) 5、6月の理事会にて第18期の理事・監查人事案を下記の通り決め、総会に諮る。

会長：	高村 弘毅
副会長：	増山 敏夫
幹事：	小林 務
会計理事：	小島 明
総務委員長：	藤寄 喬子
研修・親睦委員長：	片倉 満
地域奉仕委員長：	澤 雄二
広報委員長：	登坂征一郎
会員委員長：	小林 務
監査：	北村 克彦

2) 事務局：鈴木泰弘会員宅

1.4 訃報

休会中の神谷真一会員（第12代会長）が、心不全にて6月4日逝去されました。享年83歳。ご葬儀はご親族で6月11日に執り行われました。ご冥福をお祈りいたします。合掌。

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

鈴木泰弘委員長

1) 5月までの誕生祝いは高村会長の祝いの言葉を添えて郵便にてお贈りし、6月誕生の北村克彦監査には5月の理事会にて祝った。誠にありがとうございます。

2) 第18期のスケジュールの予定

定例会；7月7日、8月4日、9月1日、10月6日、11月10日、12月1日、1月12日、2月2日、3月2日、4月6日、5月11日、6月1日（7月、8月は中止）

開始時間；全て 13：30～

理事会；7月28日、8月25日、9月29日、10月27日、11月24日、12月22日、1月26日、2月16日、3月30日、4月27日、5月25日、6月29日

2.2. 研修・親睦委員会

片倉満委員長

昨今の東京都新型コロナ感染状況も厳しい状態にあり、研修親睦活動も暫くの間休止させていただきます。

2.3. 地域奉仕委員会

澤雄二委員長

コロナ講演会、ZOOMの聴講者募集に苦労いたしました。講師も決まり、仕上がったポスターを見てスタッフの一人が「これなら100人の聴講申込みはあつという間だ」、不安を抱えていた一同少しはホッとしました。しかし苦労はそこからをはじめました。ポスターの張り出し、たま広報の予告記事、それでも登録者は増えず。ZOOM受付の片倉会員が「大変だ20人に届きません」。緊急スタッフ会議です。

「目標を70人にして打って出よう」関係諸団体の総当たりです。近隣のプロバスクラブ、市内ロータリークラブ、多摩文化団体連合、社会福祉協議会の諸団体、多摩三田会、市内自治会等々、30団体に及びました。団地の掲示板・市内の4大学や妻や子供にまで……。

開会2日前の夜、片倉会員「やったぞ75人だ」会場参加が30人。100人参加のコロナ講演会は成功しました。2頁の満面の笑みの集合写真をご覧ください。

2.4. 広報委員会

伊藤健一委員長

- 1) プロバスニュース第95号を7月21日（水）発行・配布。
本ニュースは紙上編集会議にて作成しました。寄稿された各位に御礼申し上げます。
- 2) 会員各位からの寄稿は随時募集します。（テーマは自由）
- 3) ホームページの更新は、上記ニュース発行後に致します。感想など頂ければ幸いです。

2.5. 会員委員会

飯作金彦委員長

新型コロナ蔓延の中、委員会は今のところ開催を中止しております。

◆◆◆ 全日本プロバス協議会 ◆◆◆

1. 全日本プロバス協議会五所川原大会開催中止

五所川原プロバスクラブは、2年半にわたって開催準備をされてきましたが、コロナ防止のため開催中止。

第9回総会は文書で、8月に文書採決とのことです。

2. 会則・諸内規集の制定

賛助会員制度、財政支出基本的ルール、ホームページ運用、ホームページ「会員交流コーナー」など

3. 事務局所在地変更

住所；全日本プロバス協議会幹事長 松本忠 宅
〒803-0814 北九州市小倉北区大手町13-13-522
TEL&FAX；093-967-9925、携帯：080-1903-3014
メールアドレス；pycts423@ybb.ne.jp

1. 学位記拝受

藤崎喬子会員

2021年3月18日、創価大学通信教育・経済学部を卒業することができました。尊敬する師が創立した大学と素晴らしい学生歌は、私の長年の憧れでした。憧れのそこには「勉学」が伴うことを後になって重々思い知らされることになるのですが……。

履修登録で年間に学ぶ教科(限度40単位)が届き、スクーリング日程に従って申込み、料金を支払うとその教科の事前学習(メディア視聴)が可能となるのです。1教科90分間が5回分。単純計算で7.5時間ですが、先生の板書や小テストが加わるのでその都度視聴を停止してノートを採ることになります。メディア授業の終わりの「振り返りレポート」約1000字は、そのスクーリング時に提出です。

スクーリング最終日には50分間のテストがあり、この成績が教科の成績の70%を占めるのです。その後、課題に従って1600~2000字のレポートを2つ提出。苦しみ割には30%でしかありません。

私の場合、4年間で通算38教科、レポート65通、128単位(卒業要件124単位)でした。学びは半端なく難しく何度も挫折そうになりましたがその都度、原点の夫を思い、部屋で一人大好きな学生歌を歌い、学友と共に励まし合った4年間でした。教員や職員の人達の真心こもるサポートには感謝の思いで一杯です。

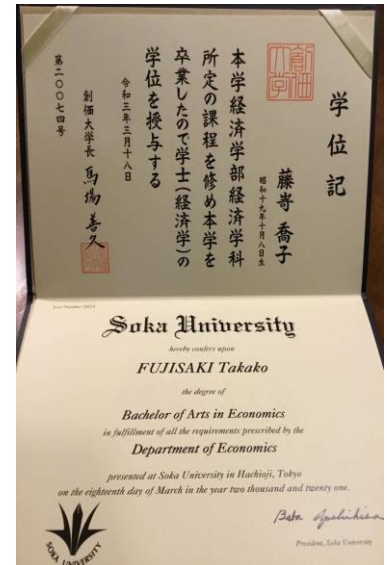
3年次2019年から、全てがパソコン主流となり、4年

次2020年は遂に一度も学校に行くことなく終わりました。紙媒体の1・2年次のレポートには朱の手書きコメントがあり、大いに勇気を頂きました。「褒められれば大人だって嬉しいのだ！」宝物になりました。

まだまだ未熟なパソコン技術ですが、縁していなければ通信教育への夢は夢の

ままでした。このご縁は、プロバスの会計のお役目を頂いたことに端を発しています。2013年7月、今は亡き稲田氏の強い勧めと励まし、一緒に見立てて頂いた賜物なのです。

危ぶまれた卒業式は、本人のみ、式典のみという形で開催され、エレベーターは使わずに集合棟と式典棟を往復、歩きに歩いた一日でした。女学生の袴姿や民族衣装の留学生、正装の男子学生が素敵でした。こうして満開のしだれ桜が紺碧の空に映える佳き日、念願の学位記を拝受することができました。



2. あの日あの頃 多摩に思いを寄せる 小林務会員

1959年(昭和34年)3月16日京王帝都電鉄(株)現京王電鉄(株)入社以来、出向も含め42年間勤務定年退職後も何かと多摩市と京王グループにお世話になり既に63年に及ぶ。入社間もない頃2週間の新入社員研修を修了、試用社員の身分で決定した配属先職場が調布変電所。

3カ月の実習により正社員登用との会社説明でした。この変電所は京王線柴崎駅近くに有り、京王線一部区間内の電車を動かす電気や駅ホーム等の照明に、また工場等の電動機の電力を供給。当時は特別高圧交流2万Vで受電し其々必要な電圧に変圧、水銀整流器で整流(電車の主電動機は主に直流使用)して供給送電する。当時の京王線の電車は直流600V仕様で、1963年(昭和38年)に1500Vに昇圧、当変電所の送電保守管理業務に従事していました。

前置きが長くなりましたが、配属後初めての休日4月5日頃でした。職場の先輩有志から私の入社歓迎会を兼ねてお花見に誘ってくれました。行き先は南多摩郡多摩村聖蹟記念館でした。聖蹟桜ヶ丘駅(旧関戸駅)からハイキングです。連光寺経由のボンネット型のバスの運行もありましたが、新人の教育研修も兼ねて先輩が用意した食糧酒等を大きなリュックに詰め込み、当然私が背負わされ途中春日神社で一休み、暫く坂道が続き漸く聖蹟記念館広場到着。好天に恵まれ多摩村中心部の関戸や桜ヶ丘駅、多摩川を見下

ろす絶景と満開の桜を存分に楽しみました。未成年でお酒が飲めず止む無くアカペラで故郷の民謡武田節を歌う事になり先輩から拍手喝采。帰りの途中に当時は未だ珍しかったゴルフ場桜ヶ丘CC建設工事現場(翌35年開場)を見学して桜ヶ丘駅にて解散。

私は入社間もなく高幡不動駅近くの民家に間借り自炊生活を始めていました。当時の住所が東京都南多摩郡七生村高幡142番地森久保方(現日野市高幡142番地)、入社2年後当時多摩村関戸1丁目にお住まいで、私に業務指導と遊びの麻雀の手解きを受けた先輩S氏宅に、休みの度に卓を囲む事になった有る時、S氏が多摩村村会議員選挙に立候補する事になり、急遽私に選挙応援を依頼され生まれて初めての体験。当時流行りのオート三輪車の荷台に乗せられて選挙演説に狩出され、駅周辺の関戸から一ノ宮・連光寺等々未だニュータウンの建設以前の野猿街道・鎌倉街道を土埃に塗れメガホン片手に連呼を繰り返しました。お陰様でS氏目出度く初当選。

上京して2年私の新米社員時代多摩村(現多摩市)での思い出の一ページを披露させて頂きました。京王電鉄も営業拠点を副都心新宿から多摩市に移転し三十三年、奇しくも今年は「多摩市制五十周年」、節目の年でもあります多摩市、京王グループ益々の繁栄を祈念いたします

俳句会の活動

俳句会は、コロナ禍で、昨年の2月より対面の句会が開催できませんでしたが、メールやファックスを連絡手段として紙上句会で毎月休むことなく継続してきました。

その間、からまつ名誉主宰由利雪二先生、主宰石川春兎先生のご指導を賜り、この継続に大きなお力添えを頂きました。感謝申し上げる次第です。

現在、句会メンバーは、当クラブ会員4名、会友1名、他3名(そのうち女性2名)の8名です。

今回、第165回4月紙上句会の作品を掲載させていただきます。作品と合わせ自句自解(作句の動機、背景など)を添えてみました。

1. 第165回(令和3年4月紙上句会)

鶉の落とす椿や緋毛氈 川久保魚水

椿の花の蜜を吸う鳥は、東京にはメジロと鶉だけだ。椿の花が咲くと鶉は一日中花の傍を離れず縄張りになっている。鶉に落とされた花は、緋毛氈を敷いたかの様だ。

ピンクにも黄にも負けじとハクモクレン

北村 岳人

梅の花を初め、桜などのピンク、水仙や山吹などの黄の花が賑やかに咲き誇っている中に、真っ白なハクモクレンが負けじと咲いている。

春疾風強く門扉を押開ける 関戸 氷子

コロナ禍の中、自粛生活が長くなり自宅に籠る事が多くなりました。外出することが感染拡大につながると思いました。しかし、春疾風が吹き、少しは外に出る事、立ち向かう強さも必要と言われている感じがしました。

手に取りしもどしつ悩むおはぎかな 滝川 露枝

山積みされたおはぎが美味しそう。買うか買わないかいつも悩みます。

家にはどら焼きも最中もあるし、太ってしまうし、悩みます。

土手一面紫に染む虎杖の芽 登坂 爽風

久しぶりにお決まりの多摩川沿いの散歩コースに出た。土手はまだ枯草に覆われて僅かながら蓬の芽がのぞいていたが、いち早く紫の虎杖の芽が土手一面を覆い尽くしている光景に出会った。旺盛な虎杖に目を見張った。

春隣るひ孫へ初の赤い靴 蓮池 秋霜

二人目のひ孫は、ひとり立ち歩きを喜び、散歩を好む様になった。先に生まれた子は春から小学校一年生。共に外遊びが大好き。

近くの休耕田の一つはレンゲ田。満開になったら御八つを持って連れ出し遊ばせよう。

沓の音消え春月の二月堂

増山胡桃子

東大寺二月堂修二会(お水取り)のニュースを見て、昔「お水取り」の直後、まだ「行」の気配が残る二月堂を訪れた時の事を思い出して詠んだ。沓の音は練行の籠僧の沓音。むろん芭蕉の名句「水取りや氷の僧の沓の音」が念頭にある。元の静寂を取り戻した春の夜の二月堂をイメージした。

入学式親子の頬に花の色

松山 洋一

コロナ禍で行けないと思っていた入学式に参加できた喜びと、友達がいる前で照れ笑う娘、そして校門の綺麗な桜の色が、我が子の頬に映えていました。

2. 俳句会の発足当初の紹介

俳句会では平成30年から、各会員の年間の作品の中から自選の12句を小冊子『こだま』にまとめて発行しております。今年度は第4集を編集しております。

この創刊号の序に蓮池秋霜会友が、当俳句会の生い立ちについて述べられておりますので、ご紹介させていただきます。

東京多摩ロータリークラブが社会奉仕活動として、多摩市中学生俳句事業を平成18年から実施され、平成19年8月、これへの協力依頼を受けた当プロバスクラブの有志による俳句の勉強会を始めたのが、俳句会の成り立ちとなりました。

幸いにも、中学生俳句大会審査委員長が、俳句結社「からまつ」主宰由利雪二先生と石川春兎先生でありました。先生方とは蓮池秋霜会友との人脈で当俳句会の月例会のご指導をいただけることになり、爾来十余年、現在百六十七回を重ねてきました。

なお、現在雪二先生は「からまつ」結社の名誉主宰、春兎先生は主宰を任じておられます。

俳句会の発足当初は、会員15名、全員俳句に特に心得がありませんでしたが、まずは中学生に負けじと一念発起し、雪二先生から頂く兼題を2句、それに雑詠2句の計4句を句会に投句し、その一覧(清記表)から4句選句して互選、合評しあった後、両先生から助言・添削を頂く勉強会を始めました。

当初は、俳句は十七音の定型詩、芭蕉・蕪村・虚子程度の認識。作句のセオリーの季語、詩の持つリズム、季語のダブリや三段切れをなくす等々、表現に当たっての初歩的な事項を指摘・添削をしていただきました。

以上の通り、発足当時の状況を、紹介させていただきましたが、俳句会は、毎月第2金曜日午後を定例会として、この6月に167回と重ねてまいりました。コロナ禍を避けるため自粛状況で、紙上句会を続けておりますが、ご興味のある方は、是非お声をかけて頂きたいと思ひます。

(文責：登坂征一郎(爽風))

五節句の四番目「七夕」

新暦7月7日は梅雨の最中で星など見えにくい、今年は旧暦7月7日は新暦の8月14日にあたり、夜が更けるほど冴え冴えとして天の川伝説に相応しい夜空となる。雛祭り同様、七夕祭りも旧暦で楽しみたい。

七夕は元々「しちせき」と言われていたのが、「たなばた」と言われるようになったのは、平安時代以降のことだと言う。万葉集に織女を棚機津女(タナバタツメ)と詠まれている歌があり、また、牽牛の仕事の種物(タナツモノ)の音が重なり「たなばた」と呼ばれるようになったと説明されている。

中国には諸説あり。女性が男性の元へ行くとあるが、平安時代の日本では妻問い婚と云う日本独特の風習があったので、彦星が織姫の元へと変わった。妻問い婚とは同居しない婚姻様式と広辞苑にある。光源氏風と早合点。

奈良時代聖武天皇の御代に天の川を詠んだ山上憶良の有名な二首『彦星の妻迎へ船漕ぎづらし天の河原に霧のたてるは』726年詠む。『天の川いと川波は立たねどもさもらいがたし近き此の瀬を』730年詠む。いずれも彦星を慮り心配された心を詠まれている。また、中納言大伴家持の『鵲の渡せる橋に置く霜の白きを見れば夜ぞ更けにける』と新古今の620に出ている。

阪東熙子会員



古今和歌集の古歌『天の川遠き渡りにあらねども君が船出は年にこそ待て』の和歌は特別で、梶の葉に墨で散らし書きされ、水を張った盥に浮かばせ、平安時代から星に捧げられる和歌である。

十年ほど前に、800年続く和歌の家冷泉家で行われる乞巧奠(キッコウデン)の祭りの折、乞巧奠行事を公開して下さる催物があり参加した。雅楽朗詠披露があり、天の川に見立てた白い布を挟み、狩衣や桂袴(ケイコ)装束の男女が向かい合う光景は風雅な絵物語様。暗い室内で衣擦れのかすかな音、独特な抑揚で詠みあげられる声が辺りの空気を揺るがす。今思い出しても緊張する。

さて、俳句では『荒海や佐渡に横たう天の川』という芭蕉の名句がある。一般的に七夕は庭先で見上げて探すと思いきや、『美しや障子の穴の天の川』と一茶の七番日記に載っている。わざわざ小さな穴から見るとは、望遠鏡のつもりなのか？立って詠んだのか、寝そべて詠んだのか。俳諧の妙味、此処にありの句と解した。

『七夕やまだ指折って句をつくる』秋元不死男の句。本当にこの歳になっても、俳句も和歌も左指を折る!! しかも手に書いているわけでもないのに自分の手を見たり、自己陶醉の一時、発句返歌自在の人に成りたい

友がらと逢瀬待たるるふた年の

変わらぬ恋慕日に日にませり 浮草

◇◇◇ 私の一品 ◇◇◇

指書の掛け軸

登坂征一郎会員

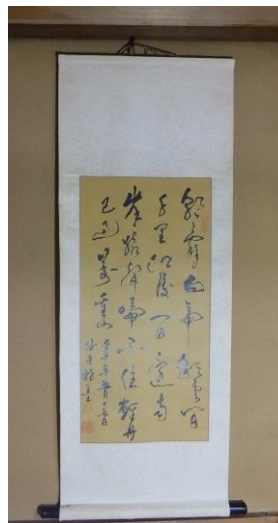
約20年前、中国最大の大河長江の三峡ダムの竣工が間近に迫り、完成するとその水位が約100mも上昇して、中流域の数千年を誇る貴重な文化遺産が水没するとのことで、そのまえに見ておきたいのと、この世界最大のダム・水力発電所に強い関心がありました。

丁度、この長江の三峡下りの船旅を含む中国世界遺産巡りの「上海・三峡・西安・北京9日間の旅」のツアーがあることを知り、好機とばかりに妻と中国は初めてのそのツアーに参加しました。

ツアー3日目、重慶より待望の三峡下りの北斗号に乗船〔三峡とは長江の中流域の瞿塘(くとう)峡・巫(ふ)峡・西陵峡で、いずれも山が迫り急流で船の往来難所〕。

乗船第1日目は、奉節手前まで来て停泊、船長主催の歓迎パーティがあり、賑やかな歓迎を受けました。そのパーティの一角で、指書の書家孫徳平氏が見事な指(ゆび)遣いで、乗船客の注文に応じて、掛け軸や色紙、扇子などに墨痕鮮やかに書を披露しておりました。

何か記念にと小さな掛け軸に、唐代の詩人李白の漢詩『早発白帝城』を書いて貰いました(右の写真)。白帝城ゆかりの唐代の李白が罪を着せられて流される途中、恩



赦にあつて、白帝城から引き返す折に詠んだ漢詩です。乗船第2日目は奉節に下船。白帝山に登る。三国時代、蜀の劉備がここで没する際、息子達を軍師諸葛孔明に託したことで有名な白帝城がある。

午後はいよいよ三峡下り、瞿塘峡・巫峡の兩岸は峨峨たる山々が迫り来る迫力ある光景に魅せられました。帰心矢の如し、李白の心境や如何に！数年後には三峡ダムの完成で水没してしまう兩岸の景色を心に刻むように、峡の日没まで船首に立っておりました。

つと ばつ 早に白帝城を発す

李白

あした さいうん かん こうりょういちにち かえ 朝に辞す白帝彩雲の間 千里の江陵一日にして還る

えんせいな や けいしゅうすで す ばんちよう 兩岸の猿声啼いて住まざるに 軽舟已に過ぐ万重の山

コロナ禍感染防止で定例会が開催されず、
誕生祝いの品が贈られましたのでここにお祝い
申し上げます。

1. 5月誕生日を迎えられました！



左から小島 明会員・永田 宗義会員

小島さん；おかげさまで、古希を迎える事となりました。今後とも元気で頑張りたいと思います。

永田さん；思いやりを常に忘れず誰とでも接したいと思っています。

2. 6月誕生日を迎えられました！



北村 克彦会員

北村さん；82歳。人生百年時代です。残りの人生悔いなく、多くの人達共に楽しんでいきたいと思っています。

◇◇◇ 東京多摩プロバスクラブソング ◇◇◇

作詞 池田 寛
作曲 中村 昭夫

聖の桜仰ぎつつ 多摩の流れに身を清めて
緑の杜に囲まれた 我が故郷の行く末と
社会奉仕に力をそそぐ
集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

霊峰富士を仰ぎつつ 心の業を磨き合い
豊かな知識身につけて 次の世代の若人の
教え導く糧となる
集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

多摩のハローキティマンホール蓋の紹介

永田宗義会員

多摩市では「ハローキティに会える街」として多摩センター地区に設置されたハローキティでデザインした3種類のマンホール蓋があります。「マンホールラー」と呼ばれるファンたちが、お目当てのマンホールを探しに訪れる観光振興にも期待できるだろうと思うものの多摩センター親善大使として、ウォーキングを通して街のイメージアップに貢献するよう大いに望んでいます。

下記に先日写真撮影した「多摩ゆかりのハローキティのマンホール蓋」を表示します。



ハローキティマンホールの

設置場所は下記の通り

左上；白山橋のすぐ近く

右上；サンリオピューロランド

前の歩道路・他(3ヶ所)

左下；中央公園や駅周辺の歩道路(6ヶ所)

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

95号は寄稿など会員夫々の記事が面白い。○藤寄喬子会員の「学位記拝受」。定年後好きな古典文学などを聴講、単位を取得した友人はいるが、学部卒業までやってのけた人は私の周りで初めてである。「あっぱれ！」の一語。○小林務会員の「あの日あの頃 多摩に思いを寄せる」。60年以上前、京王電鉄に就職した頃の話。まだ聖蹟桜ヶ丘駅が関戸駅と呼ばれ、多摩はまだ開発前の田舎だった。氏の生活振りを活写。多摩育ちでない者にとっては興味深い。○阪東照子会員の「五節句の四番目 七夕」。七夕の由来を万葉集から説き起こし、乞巧奠行の体験を交えてのお話は奥が深い。新暦の七夕が梅雨のさ中では天の川も見えず、全く意味をなさない！同感である。○登坂征一郎会員の私の一品「指書の掛け軸」。指で書く書があるとは知らなかった。さすが書の国。中国・山峽ダムが出来た直前に夫妻で貴重な山峽下りをされた思い出の旅。20年前の中国が垣間見える。○永田宗義会員の「多摩市のハローキティのマンホール蓋」。マンホールの蓋は各自治体、郷土色のある絵柄が多い。注意して見て歩くと結構面白い。氏はそれをやった。蓋一枚が一編の詩である。

(広報委員 増山敏夫記)